

## 子どもと大人の味覚の感受性には差があります

### 静和小で児童と保護者の味覚感度を調査



獨協医科大学教授の  
武藤孝司先生



東京家政学院大学の  
松月弘恵先生

2月7日(月)に静和小学校体育館において、「学童期から始まる生活習慣病の予防」と題して、獨協医科大学教授の武藤孝司先生による講演が、5・6年生と保護者を対象に行われました。

武藤先生からは、生活習慣病の代表とされる、脳血管疾患、心臓病、がんなどの原因となる生活習慣の講話をわかりやすく、5・6年生の児童向けと、保護者向けの内容とに分けて説明をしていただきました。

また、平成16年度に静和小の4・5・6年生の児童およびその保護者を対象に、児童の塩分摂取量と塩分に対する感受性の調査が東京家政学院大学の松月弘恵先生により行われました。

その結果によると、塩味の味覚調査では、保護者は児童に比べて塩味の味覚がにぶくなっている結果が出ています。これは、大人がちょうどよいと考える塩分は、児童にとっては塩味が強いということになります。また、児童は男女に味の好みに差があり、女兒は甘味、男児は辛味を好んでいました。辛味を好む男児は塩摂取量が多いという結果も出ています。児童の好みのおやつに関しても、塩分の多いおやつを好む傾向があります。

調査の結果、母親の食事に対する意識は高く、薄味を心がけ、化学調味料の使用を控え、塩分を多く含む食品の買い置き等を控えるなどの工夫が見られます。しかし、子ども達の高塩分食品への嗜好は高く、成長につれ食品の選択を児童自身に任せることが多くなるため、今後、「食育」は、教育の一環として重要な意味を持つといえます。

### 岩小6年生が「栃木掃除に学ぶ会」とともにトイレ掃除

2月22日(火)に岩小において、「栃木掃除に学ぶ会」(代表:植木政行氏)の指導を受けながら、6年生がトイレ掃除を行いました。

掃除に2時間をかけ、便器や洗面台、換気扇をスポンジやブラシなどを使ってピカピカに磨き上げました。

掃除に参加した児童からは「きれいになったトイレは気持ちがいい」などの感想を聞くことができました。

人が嫌がるトイレ掃除をすることは、自分の心を磨くことでもあると植木さんはいいます。トイレ掃除を始めた時の児童の固い表情も、トイレが磨き上げられ、きれいになるにしたがって、真剣そのものになりました。

### トイレ磨きは心磨き



# まちと生きがい探しを楽しむセミナー

## 子ども活動支援指導者養成講習会



▶ 部会ごとの発表会では中学生も自分たちの提言を発表した。



▶ 分科会Dの様子、指導は聖徳大学の西村美東士教授



1月18日(火)と2月11日(金)の両日中央公民館において、まちと生きがい探しを楽しむセミナー(子ども活動支援指導者養成講習会)【主催：NPO法人全国生涯学習まちづくり協会、共催：岩舟町青少年育成町民会議】が開催されました。「まちづくりは、ひとづくり」という観点から、子ども地域で守り育て、子どもの活動をサポートし、地域を元気にするリーダー育成の講習会でもあるこのセミナーには、青少年育成町民会議の関係者や、関係団体関係者が、まちづくりや子どもの地域活動に関する研修会をとおして、地域活性化を図る方法などを学びました。

2月11日はテーマごとに4つの分科会に別れました。分科会Dは、「まちづくりに参画する青少年(子ども)」をテーマに、聖徳大学の西村美東士教授指導のもと、中学生を中心として大人への提言やまちへの提言が話し合われました。参加した18人の児童・生徒・学生はそれぞれの意見を出し合い、提言をまとめていくプロセスを学びました。

最後に分科会ごとに行った発表会では、大人と子どもとの世代間の壁を取り払っての意見交換ができたことに大きな成果を得ることができました。

分科会A「子どもの居場所を考える」  
分科会B「魅力ある団体のあるべき姿」  
分科会C「子育てとまちを楽しむ計画」  
分科会D「まちづくりに参画する青少年(子ども)」  
の4分科会に分かれてワークショップが行われた。

## 不法投棄の抑止力として

### 不法投棄巡視員が不法投棄・ポイ捨て防止グッズを手作り

2月25日(金)に不法投棄巡視員が鳥居に似せた、不法投棄・ポイ捨て防止グッズを作成しました。この鳥居に似せた防止グッズは、国土交通省が不法投棄対策として、投棄の多い河川敷などに置いたところ、そこへの投棄が激減したといった結果も報告されています。

平成12年4月から家電リサイクル法が施行され、テレビや冷蔵庫などの大型の不法投棄が後をたちません。住民のみなさんによる定期的な清掃活動や、不法投棄の巡視活動とともに、不法投棄・ポイ捨ての抑止力としての効果が期待されます。

